

# 北見工業大学学報

第 217 号 (2006 年 9 月号)

## 目 次

学位記授与式	平成 18 年度 9 月期学位記授与式举行	3
入 試	大学院入学試験の実施	4
	平成 19 年度学生募集要項の公表	5
研究助成	平成 18 年度共同研究の受入状況	7
	平成 18 年度受託研究の受入状況	7
	平成 18 年度奨学寄附金受入状況	8
人 事	人事異動	9
	新任者紹介	9
国際交流	慶尚大学校工科大学との短期交流研修報告	10
	英語研修プログラム報告	12
	中国語短期研修報告	14
	ACCU・ユネスコ大学生交流プログラムについて	16
諸 報	科学研究費補助金説明会を開催	18
	ものづくりセンターの看板上掲	19
	北見工業高校と SPP 事業を実施	20
	財務諸表等の開示	20
	進学説明会の開催	23
	父母懇談会 (秋季・大阪) を開催 — 関西地区で活躍する同窓生から就職についての助言 —	23
	SVBL オープンラボ (研究報告会) を開催	24
規 程	北見工業大学施設環境委員会規程の一部を改正する規程 (北工大達第 42 号)	25
	北見工業大学入学試験実施規程の一部を改正する規程 (北工大達第 43 号)	26
	北見工業大学学長選考会議規程の一部を改正する規程 (北工大達第 44 号)	27
	国立大学法人北見工業大学文書処理規程の一部を改正する規程 (北工大達第 45 号)	28
	国立大学法人北見工業大学固定資産に係る減損処理取扱要項 (北工大達第 46 号)	33
	国立大学法人北見工業大学予算決算及び出納事務取扱規程の一部を改正する規程 (北工大達第 47 号)	35
	国立大学法人北見工業大学小口現金取扱要項の一部を改正する要項 (北工大達第 48 号)	45
	国立大学法人北見工業大学収入金保管要項の一部を改正する要項 (北工大達第 49 号)	46

国立大学法人北見工業大学金庫管守要領の一部を改正する要領 (北工大達第 50 号) .....	47
国立大学法人北見工業大学契約事務取扱規程の一部を改正する規程 (北工大達第 51 号) .....	48
国立大学法人北見工業大学契約事務取扱要項の一部を改正する要項 (北工大達第 52 号) .....	51
国立大学法人北見工業大学政府調達事務取扱要項の一部を改正する要項 (北工大達第 53 号) .....	61
国立大学法人北見工業大学契約審査委員会要領の一部を改正する要領 (北工大達第 54 号) .....	62
国立大学法人北見工業大学旅費規程の一部を改正する規程 (北工大達第 55 号) .....	63
国立大学法人北見工業大学旅費取扱要項の一部を改正する要項 (北工大達第 56 号) .....	77
国立大学法人北見工業大学物品管理事務取扱要項の一部を改正する要項 (北工大達第 57 号) .....	82
国立大学法人北見工業大学自動車管理運用要領の一部を改正する要領 (北工大達第 58 号) .....	83
国立大学法人北見工業大学作業環境測定室設置要項の一部を改正する要項 (北工大達第 59 号) .....	84
国立大学法人北見工業大学不動産管理規程の一部を改正する規程 (北工大達第 60 号) .....	85
国立大学法人北見工業大学防火管理規則の一部を改正する規則 (北工大達第 61 号) .....	88
国立大学法人北見工業大学工事契約事務取扱要領の一部を改正する要領 (北工大達第 62 号) .....	95
国立大学法人北見工業大学工事契約事務取扱委員会内規の一部を改正する内規 (北工大達第 63 号) .....	107
国立大学法人北見工業大学設計・監理等業務委託契約要領の一部を改正する要領 (北工大達第 64 号) .....	109
国立大学法人北見工業大学安全衛生委員会規程の一部を改正する規程 (北工大達第 65 号) .....	110
国立大学法人北見工業大学電気工作物保安規程の一部を改正する規程 (北工大達第 66 号) .....	111
国立大学法人北見工業大学法人文書管理規程の一部を改正する規程 (北工大達第 67 号) .....	112
国立大学法人北見工業大学個人情報管理規程の一部を改正する規程 (北工大達第 68 号) .....	113
北見工業大学客員教授及び客員助教授選考規程の一部を改正する規程 (北工大達第 69 号) .....	114
国立大学法人北見工業大学不動産管理規程の一部を改正する規程 (北工大達第 70 号) .....	115
国立大学法人北見工業大学物品管理事務取扱要項の一部を改正する要項 (北工大達第 71 号) .....	116
国立大学法人北見工業大学防火管理規則の一部を改正する規則 (北工大達第 72 号) .....	117
国立大学法人北見工業大学電気工作物保安規程の一部を改正する規程 (北工大達第 73 号) .....	119

日誌 8～9月 .....	121
---------------	-----

## = 学位記授与式 =

### 平成 18 年度 9 月期学位記授与式挙行

(総務企画課)

平成 18 年度 9 月期学位記授与式が、9 月 15 日 (金) 午前 10 時から、学長室で行われました。

今回の授与式は、理事、副学長、指導教員が列席するなか、大学院工学研究科博士前期課程情報システム工学専攻修了者の藤婷婷氏、大学院工学研究

科博士後期課程システム工学専攻修了者の左紅英氏、シェリフ ベスキロウン氏、大学院工学研究科博士後期課程物質工学専攻修了者の加藤清彦氏、工藤慶一氏、羅偉民氏、論文博士の高橋理音氏の 7 人に対し、常本学長から学位記が授与されました。



学長より学位記授与される様子



学長・理事・副学長・指導教員と修了者

## = 入試 =

### 大学院入学試験の実施

(入 試 課)

平成 18 年度秋季及び平成 19 年度大学院入学試験が、8 月 21 日～23 日に実施されました。課程別専攻別の合格者数等は次表のとおりです。

#### 平成 18 年度（秋季）博士前期課程（外国人留学生特別選抜）

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学専攻	若 干 人	0	0	0
電気電子工学専攻		0	0	0
情報システム工学専攻		0	0	0
化学システム工学専攻		0	0	0
機能材料工学専攻		1	1	1
土木開発工学専攻		0	0	0
合計		1	1	1

#### 平成 18 年度（秋季）博士後期課程（社会人選抜）

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
システム工学専攻	若干人	2	2	2
物質工学専攻		0	0	0
合計		2	2	2

#### 平成 19 年度博士前期課程（一般選抜）

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学専攻	16	23	23	18
電気電子工学専攻	16	20	20	20
情報システム工学専攻	16	17	17	17
化学システム工学専攻	14	8	8	8
機能材料工学専攻	10	26	25	24
土木開発工学専攻	20	19	18	18
合計	92	113	111	105

#### 平成 19 年度大学院博士後期課程（一般選抜）

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
システム工学専攻	若干人	2	2	2
物質工学専攻		0	0	0
合計		2	2	2

## 平成 19 年度学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 19 年度北見工業大学学生募集要項（一般選抜・特別選抜）が 10 月に公表されました。  
要項の内容は、7 月に公表された入学者選抜要項の内容を含め、出願手続、個別学力検査実施日程の詳細、検定料その他入学者選抜上の具体的事項及び留意点を記載し、出願書類等を同封したものです。

募集要項の主な内容は以下のとおりです。

一 般 選 抜	特別選抜（推薦入学・帰国子女特別選抜）
1. 募集人員 下記別表のとおり 2. 願書受付期間 平成 19 年 1 月 29 日（月）～2 月 6 日（火） 3. 個別学力試験の期日 前期日程 課しません 後期日程 平成 19 年 3 月 12 日（月） 4. 合格者の発表 前期日程 平成 19 年 3 月 6 日（火）の予定 後期日程 平成 19 年 3 月 20 日（火）の予定 5. 入学手続期間 前期日程 平成 19 年 3 月 7 日（水）～3 月 15 日（木） 後期日程 平成 19 年 3 月 22 日（木）～3 月 27 日（火） 6. 追加合格通知期間 前・後期日程とも 平成 19 年 3 月 28 日（水）～3 月 31 日（土）	1. 募集人員 下記別表のとおり 2. 願書受付期間 平成 18 年 11 月 1 日（水）～11 月 7 日（火） 3. 選抜試験の期日 平成 18 年 12 月 1 日（金） 4. 合格者の発表 平成 18 年 12 月 14 日（木）の予定 5. 入学手続期間 平成 19 年 1 月 15 日（月）～1 月 19 日（金）

### ○募集人員

(人)

学 科	入学定員	募 集 人 員		
		前期日程	後期日程	推薦入学
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	80	35	30	15
電 気 電 子 工 学 科	80	40	28	12
情 報 シ ス テ ム 工 学 科	60	25	25	10
化 学 シ ス テ ム 工 学 科	60	30	14	16
機 能 材 料 工 学 科	50	18	22	10
土 木 開 発 工 学 科	80	32	32	16
合 計	410	180	151	79

注 後期日程の募集人員には、各学科とも帰国子女特別選抜の募集人員若干人を含む

○個別学力検査 日時・会場

・日時（後期日程）

期日	教科	時間
平成 19 年 3 月 12 日（月）	数学	10 : 00～12 : 30
	理科	14 : 00～15 : 30

・受験会場 北見工業大学または大阪会場（関西大学千里山キャンパス）

= 研究助成 =

平成 18 年度共同研究の受入状況

(研究協力課)

平成18年9月30日現在

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
国際交流センター	教授	山 岸 喬	アイヌ薬用植物の調査研究	株式会社ノエビア
電気電子工学科	教授	平 山 浩 一	高機能光導波路設計のためのトポロジー最適化技術の開発	株式会社豊田中央研究所
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	SPEC製土壌硬化剤による不良土の改善に関する研究	株式会社SPEC
土木開発工学科	教授	鈴木 輝之	低温環境を利用した海跡湖底泥の脱水改善に関する研究	島田建設株式会社
国際交流センター	教授	山 岸 喬	伝統医学とバイオメディカル技術による生活改善食品の開発	独立行政法人 科学技術振興機構
電気電子工学科	教授	田 村 淳 二	風力発電システムの制御技術に関する研究	株式会社日立製作所 基礎研究所
土木開発工学科	助教授	宮 森 保 紀	橋梁耐震補強用スツーパーの寒冷地における特性の研究	オイレス工業株式会社
電気電子工学科	助教授	菅 原 宜 義	送電線整備の落氷対策技術に関する研究(その2)	東京電力株式会社 技術開発研究所
地域共同研究センター	教授	鞘 師 守	鉄担持処理により得られる発色意匠木炭の研究開発	株式会社福地工業 (北見市)
化学システム工学科	助教授	岡 崎 文 保	生ゴミ処理機から発生する悪臭を分解する触媒の開発	株式会社北見コンピュータ・ビジネス(北見市)

平成18年度累計72件

平成 18 年度受託研究の受入状況

(研究協力課)

平成18年9月30日現在

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費 円
国際交流センター	教授	山 岸 喬	生活習慣病等改善効果を有するハマナス新規高機能性エキスの開発	(社)北見工業技術センター運営協会	1,617,000
化学システム工学科	助手	服 部 和 幸	超分子構造を利用する高配向性セルローズ繊維・フィルムの創製	独立行政法人 科学技術振興機構	2,000,000
機械システム工学科	助教授	松 村 昌 典	積雪寒冷地における冬期道路環境向上のための集風塔型風車と防雪柵のバイブリット化に関する試験研究	独立行政法人 科学技術振興機構	2,000,000
化学システム工学科	教授	堀 内 淳 一	循環型バイオリアクターシステムによるチーズホエーを原料とした環境調和型融雪剤CMAの効率生産	独立行政法人 科学技術振興機構	2,000,000
化学システム工学科	助手	多 田 清 志	きのこ廃培地を利用したキシリトール発酵プロセスの開発	独立行政法人 科学技術振興機構	2,000,000
機能材料工学科	助教授	伊 藤 英 信	麻オガラーライムケーキ複合材料の製造と健康建材への応用	独立行政法人 科学技術振興機構	2,000,000
化学システム工学科	助教授	中 谷 久 之	劣化反応を利用した循環型ウッドプラスチック複合材料の開発	独立行政法人 科学技術振興機構	2,000,000
土木開発工学科	教授	川 村 彰	ドライビングシミュレーターを用いた道路マネジメントシステムの開発	独立行政法人 科学技術振興機構	2,000,000
未利用エネルギー研究センター	教授	庄 子 仁	表層型メタンハイドレートの産状解明と生産手法の開発におけるメタンハイドレート物性の評価	清水建設(株)	2,630,000
電気電子工学科	助手	仲 村 宏 一	電気二重層キャパシタの性能特性に関する調査研究	ECaSSフォーラム	600,600
機能材料工学科	教授	青 木 清	メンブレン合金の開発(金額増額)	(株)日本製鋼所	6,017,130

平成18年度累計14件

## 平成18年度奨学寄附金受入状況

(研究協力課)

平成18年9月30日現在

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
電気電子工学科	助教授	武山 真弓	工学研究のため	株式会社富士通研究所	500,000
機械システム工学科	教 授	大橋 鉄也	多結晶モデルによる高度構造解析手法 (Ⅱ)	株式会社日立製作所 日立研究所	200,000
化学システム工学科	教 授	堀内 淳一	規格外小麦からのバイオエタノール生 産	北斗工機株式会社	1,000,000
情報システム工学科	講 師	後藤 文太郎	工学研究の為	有限会社 ノース・ ビュア	50,000
化学システム工学科	教 授	吉 田 孝	漆研究のため	吉田 孝	300,000
土木開発工学科	助教授	伊藤 陽司	工学研究の為	伊藤 陽司	150,000
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	配電用がいし類の塩害および絶縁特 性に関する研究のため	北海道電力株式会社	1,000,000
土木開発工学科	助教授	高 橋 清	工学研究のため	株式会社 ドーコン	1,300,000

平成18年度累計44件



= 人事 =

## 人 事 異 動

(総務企画課)

### ○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
18.10.1	土木開発工学科助教授	山下 聡	土木開発工学科教授
〃	電気電子工学科教務職員	高橋 理音	電気電子工学科助手
〃	(新規採用)	兼清 泰正	化学システム工学科助教授

## 新 任 者 紹 介

(総務企画課)

### ○化学システム工学科助教授に かねきよ 兼清 やすまさ 泰正 氏

昭45. 3. 13生

平 7. 3 名古屋大学大学院理学研究科博士課程(前期課程)修了

13. 3 博士(工学)(九州大学)

7. 4 チッソ株式会社研究員

13. 8 産業技術総合研究所特別研究員

15. 4 日本学術振興会特別研究員

18. 4 産業技術総合研究所特別研究員

## = 国際交流 =

### 慶尚大学校工科大学との短期交流研修報告

(研究協力課国際交流係 二村 肇)

平成 18 年 8 月 20 日(日)から 27 日(日)の日程で、本学と学術・教育交流協定を締結している韓国の慶尚大学校工科大学との短期交流研修が行われました。この研修は、1 年ごとに互いの大学を訪れるという形で 2000 年から続いており、今回は本学から田村淳二副学長と 10 名の学生、及び筆者の総勢 12 名が韓国・晋州(チンジュ)市にある慶尚大を訪れました。

晋州市は韓国南西部の慶尚南道にある人口約 34 万人の都市で、北見市とは 1985 年から姉妹都市提携を結んでいます。ソウル経由で 21 日に晋州入りした後、すぐに慶尚大に移動して開講式が行われ、その後、晋州市役所及び慶尚大副総長を表敬訪問しました。訪問初日は学生たちにとって緊張の連続だったようです。ただ、夕方の歓迎晩餐会のころになると緊張も解けてきて、本場韓国の焼肉やキムチに舌鼓を打っていました。

翌 22 日から本格的に研修が始まりました。研修の内容は、昼間は講義と課外研修、夜はホームステイで韓国文化を生で体験するというものでした。



歓迎会にて

#### ▼講義について

形状記憶合金、韓国の文化及び産業についての講義を受けました。慶尚大には日本語教育担当以外にも日本語を話せる教員が少なからず

おり、講義はすべて日本語で行われました。そのおかげで学生たちにとっては理解しやすく、たいへん有意義な時間になりました。

日本語教育を担当する安教授の講義では、ハンゲルの初歩について話がありました。韓国人は韓国語のことをハンゲルと呼びます。ハンゲルと日本語は文法がほぼ同じで、また似通った発音の単語が多いことなどから、日本人にとっては学びやすい言葉であるといわれています。事前にハンゲルを少し学んだ学生もいましたが、改めて講義を受けることにより、ハンゲルに対する興味をかきたてられる結果となったようです。



講義の様子

#### ▼課外研修について

韓国文化について理解を深めるため、晋州市近郊にある旧所名跡等を訪れました。晋州のシンボルでもある晋州城は、文禄・慶長の役の際に倭軍との死闘が繰り広げられたことで有名です。この晋州城中心部にある博物館を見学中に豪雨が降り出し、帰る際に場外に止めてあったバスまで移動できずに困っていたところ、車両進入禁止のはずの城内までバスが入ってきて我々を拾ってくれました。後で聞いたところ、姉妹都市北見から来た我々のために、特別に車両の乗り入れを許可してくれたそうです。かつ

て倭軍の侵攻を防ぐ戦いが繰り広げられた城内で、日本人の私たちを救うために韓国人の方々が骨を折ってくれたことに感銘を覚えました。

23日には晋州からバスで2時間ほどの慶州市に向かい、ユネスコ世界遺産である大陵苑や仏国寺を訪れました。この他、晋州近郊にある航空宇宙会社K A Iで韓国の最新技術にふれ、また仮面博物館で実際に仮面制作に取り組むなど、学生たちにとっては新旧の韓国文化にふれる貴重な機会となりました。



仮面制作の様子

#### ▼ホームステイ

学生がもっとも楽しみにしていたのがホームステイです。言葉の面で一抹の不安もありましたが、いざ生活が始まってしまえば、あとは片言の英語やボディランゲージを駆使して何とかコミュニケーションをとっていたようです。また、滞在先の親族や友人が代わる代わるの押しかけ、休む間もなく歓迎の嵐を受けていたとのこと。そのせいか、研修が終わるころにはすっかり「家族の一員」になっていたようです。なかには、最終日に涙を流して別れを惜しむ学生もいました。



ホームステイ先の家族と

#### ▼今後の交流について

今回訪問した学生たちは、1名を除き海外に出るのが初めての者ばかりでした。初めての海外経験で目が開かれたのか、学生のなかには、来年慶尚大の訪問団が来た際にはぜひ協力させてほしいと申し出る者や、同大から留学生が来た際にはチューターとしてお世話をしたいという者もいました。ただ行って終わるだけでなく、彼らが今後の交流の担い手になってくれることを期待します。

また今回は学生交流だけでなく、研修の合間を縫って田村副学長と馬工学部長との間で本学と慶尚大との共同研究の可能性について議論がなされました。田村副学長が本学研究推進センターの話をする、慶尚大側も大いに興味を持ったようでした。学生の短期交流研修は今年で7年目を迎え、恒例行事として定着した感がありますが、これに加え研究者間の交流も盛んになれば望外の喜びであると感じます。

今回の訪問団をお世話してくださったのは馬大泳(マ・テヨン)工学部長と車春南(チャ・チュンナン)副工学部長です。御両名は以前にこの短期交流研修の引率者として本学を訪れた経験があり、今回は逆に受け入れる立場から、大変熱心に歓迎してくださいました。これ以外にも、多くの方々のご尽力によってこの研修が実りあるものになりました。この場を借りて感謝いたします。来年は受け入れる立場に立って、このご恩をお返ししたいと思う次第です。

## 英語研修プログラム報告

(共通講座講師 クリストファー・ボゼック)

On August 27, 2006 eighteen students and I left Japan and traveled to Tempe, Arizona in the USA. For many of the eighteen, it was their first experience visiting a foreign country. They went with the expectations of studying English in an English-speaking country and learning about American culture. The students attended classes for 4 weeks at the ASU American English and Culture Program (AECPP) and participated in many extra curricular activities. It was the first time that KIT students participated in the ASU program.

Students took a placement test in Japan that determined which class they would be placed in. The eighteen students were placed into one of three different levels: Basic One, Basic Two and Intermediate One. The first few days were very busy with a welcome luncheon with the Director, Mark Rentz, a campus tour, and a computer orientation. Some students had to find out how to get from their home stay family's house to the university. Some families drove their students each day. Others rode bicycles or the bus.



Students from many countries

The weather in Tempe, Arizona at the end of August is quite hot. It was more than 37 C each day. Because of this extreme heat, all buildings have air conditioning. Americans like to keep the air conditioning on high and so the contrast between indoors and outdoors is very great. Keeping your body hydrated is important in Arizona and the general rule is to drink eight 500ml pet bottles of water each day.



Students enjoy dinner with host family

The students quickly found out that American food and drinks are different. The size of drinks in the USA is quite bigger than in Japan. Most students enjoyed the bigger size and free refill policy. This also helped in keeping the students full of liquids. The food portions are also much bigger in the States. The quantity is different, but also the taste is very different. Many American foods contain more sugar than Japanese foods and I heard some students say that American cuisine was "koi".

In the four weeks that they lived in the States, not one of the students caught a cold. I thought this was amazing and due to the fact that the 18 students were all healthy and

active. I also believe that the dry air of Arizona is good for people's health. Many people move to the Southwest because of the excellent air quality.

The KIT students enjoyed many special events. Some of the events were open to all the AECPC students. These included an ice cream social, a trip to the Grand Canyon, an afternoon of board games, a football activity, an ASU football game, a movie afternoon and a picnic. These were all available in the one month we were there and students could participate in them at no extra charge.



Sightseeing at the Grand Canyon

There were also two special events exclusively for KIT students. One was a trip to "Rawhide" which is a kind of cowboy theme park. At this park, we saw cowboy shows, old buildings, a stage coach, an old jail and a trick gun-shooting show. The students were impressed with the cowboys and many had pictures taken together with them. Several of the students bought cowboy hats at this place. Another one of the special events was laser tag. This is a very fun game where you shoot other people with a laser gun. The objective is to hit one of the six targets on your opponents' special vest. This is done in a big room set up like a maze with many walls to hide behind. This game was lots of fun especially when you are able to shoot a teacher. After laser tag, students ate pizza, played video games

and then played 18 holes of miniature golf.

There were many memorable moments for the students. I think that this experience has made them want to travel more and speak more English. As for me, I was really fortunate to have such an excellent group of students. They were so eager to learn and experience new aspects of American culture. They got along very well with each other and deepened their friendships. Overall it was an excellent experience for all those involved.



2006 Group at Palm Walk

# 中国語短期研修報告

(国際交流センター講師 荒谷 陽子)

9月3日から12日までの10日間、本学の交流協定締結校のひとつであるハルビン工程大学に、短期研修のために滞在しました。今回の研修は、2001年に本学がハルビン工程大学より短期訪問団を招いたことのお返しとして招待を受け、実現したものです。参加者は、昨年度1年間中国語を履修した学部2年生より希望者を募り、機械システム工学科：井坂一彦・小野寺剛・河関年成・小谷高史・島津侑宜、機能材料工学科：小出泰央・長澤則英、電気電子工学科：小堤大和の計8名を選出しました。情報システム工学科の亀丸俊一教授と、国際交流センターの荒谷が引率役として同行しました。



歓迎式

## ▼事前学習

研修に赴くにあたり、5月から渡航直前まで週に1度、昼休みを利用して計15回、中国人留学生を講師とする中国語講座を行いました。内容は、自己紹介をはじめ、現地で遭遇する場面を想定した会話練習です。

また、中国の文化や日中関係、ハルビンの町などに関する調べ学習テーマを学生一人にひとつずつ割り当て、夏休み最初に2日間にわたる発表会を行いました。

## ▼キャンパスライフ

現地では、学生・引率教員ともにハルビン工程大学の留学生寮に滞在しました。毎朝6時半に寮の前に集合し、歩いて5分ほど離れた学生食堂に向かいます。食堂のメニューは、肉まん、朝粥、揚げ餅、洋風焼き菓子類など、昼食と夕食は炒め物や餃子、麺類が中心で、一品約30



昼食風景

～50円でした。朝7時になると、迷彩服に身を包んで朝の軍事訓練を行っている1年生の集団が食堂前に到着し、整列して大声で歌を歌ったのちに食堂内になだれこんできます。

朝食が済んで寮に戻るとすぐにまた、広大なキャンパスを12分ほど歩いて（途中でまた迷彩服の集団と行きかいます）、講義棟に向かい、ラッパの高らかな音とともに8時から授業が始まりました。「講義開始10分前には教室へ」とあちこちに掲示されており、大学評価の準備もあり、遅刻は極めて厳しく取り締まられていました。

正午に再びラッパの音で授業が終わると、大混雑の食堂で昼食を取り、ミネラルウォーターを買い込み、使用済みの教科書を路上に並べて売る学生の脇を歩いて寮に戻り、午後のプログラムに出かけるという毎日でした。

## ▼中国語授業

学生は、ハルビン工程大学に常設されている中国語クラスで、他の留学生とともに授業を受けました。AからEまでのレベルのうち、全員Bクラスに加わり（但し、Aが一番上という日本人の感覚は、万国共通のものではありません



授業風景

でした)、中国語学習暦を持つ亀丸教授と、学生と同レベルの荒谷も一緒に受講(?)しました。授業内容は、会話、リスニング、語彙、読解などで、50分×4コマのスケジュールでした。学生は、中国語を中国語で習うということに最初は戸惑い、先生の言っていることがわからないという事実ショックを受けたようですが、徐々に慣れるにつれ積極的に挙手・発言する姿勢も見られました。



正門前

#### ▼課外研修

午後は日替わりの見学メニューが組まれていました。中国語の歌の練習、実験室見学、日本の学生生活の紹介、中国人学生との交流会、731部隊罪証展示館の見学などです。日本の学生生活の紹介は、紹介の依頼を受けたのがプログラムの前日の夕方でした。インターネットも使えず、時間も極めて限られた中、亀丸教授のさい配で、学生たちは各自の携帯電話に保存してある画像等を駆使し、中国語で素晴らしいスライドを作成し、良い発表をしてくれました。中国人女子学生たちとの交流も、身振り手振りに筆談を交えて盛り上がりました。731部隊の罪証展示館の見学は、事前学習を通じて学生たちから見学希望の声が上がったため、先方をお願いして予定に組み込んでもらいました。中国の子供達が事細かに教えられるのに、日本の教科書では触れられない事実を目の当たりにし、学生は様々なことを感じ、考えていたようです。

週末には、一泊二日の旅行がありました。バスで片道6時間かけて着いた景勝地五大連池は、文字通り5つ連なる池、それを上から見渡



五大連池にて

せる山に加え、石の海、氷の洞窟など見どころが多く、学生たちは中国の大自然を満喫しました。一昨年、短期交換留学で本学に滞在し、現在ハルビン工程大学博士後期課程のユ・ジンル君が通訳として同行してくれ、大いに助けられ、また楽しませてもらいました。

#### ▼成 果

学生たちがこの研修で得たものは非常に大きかったと感じています。8人中7人にとって初めての海外でしたので、異文化に接し、種々のカルチャーショックを通じて日本を外から見る良い機会になったことは言うまでもありません。言葉ができないとつまらない、もっと中国語が上手になりたい、加えて英語も話せなければという思いを抱いて彼らが帰国したのは、引率者としてこの上なく嬉しいことでした。今後も継続的な学習の機会を設けたいと考えています。また、日本に留学している中国人学生が、日本のどんなところにショックを受け、どんなことに苦勞をするかといったことを察することができたのも、大きな収穫だったと思います。私も学生と一緒に多くを学んだ10日間でした。お世話になったハルビン工程大学の皆様と、事前学習の全てに渡って助けてくれた本学機能材料工学科博士前期課程2年の白俊玲さん、並びに本学関係各位に、この場を借りて心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

## ACCU・ユネスコ大学生交流プログラムについて

(研究協力課)

9月5日(火)～23日(土)の日程で、ACCU(アジア・ユネスコ文化センター)と本学が主催してマレーシアのマラヤ大学の学生、教員12名を招いて「ACCU・ユネスコ青年交流信託事業大学生交流プログラム」が行われました。

このプログラムは平成13年度から毎年申請していたものが今年度採択され実施の運びとなったものです。今日、世界的な環境・エネルギー問題が顕在化するなかで、道東・道北地方における地球への環境負荷を軽減するための工学技術を紹介しました。

9月5日(火)の開講式、歓迎会には本学学生、教職員初めホストファミリーの方々など沢山の方が参加して19日間のプログラムが始まりました。

### ▼講義

プログラムは、まず講義から始まりました。本学の教員10名が講師となり10回の講義を実施しました。講義のテーマは、環境、自然、エネルギー等に関する大変幅広いものでした。

参加者は、詳細な受講ノートを作成して、積極的に発言し、講義終了後は必ずディスカッションとレポートを作成する時間を1時間以上とるなど熱心に取り組んでおりました。熱心なあまりレポートのまとめに時間がかかり、とうとう最終日に間に合わず、マレーシアに帰国してから本学に送ることになりました。



講義の様子

### ▼視察

このプログラムの主目的である「環境に優しい工学技術」及びユネスコ世界遺産である知床の自然を紹介するための視察を実施しました。

まず、最初は9月11日(月)に旭川のバイオトイレの工場を視察しました。おもいがけず北海道大学寺沢教授の講義を受けることができ、その後バイオトイレを実際に触れて、下水施設の不要、ほとんど感じない臭気、清潔感、分解処理能力など、その完成度の高さに、マレーシアでの設置等について活発な質問や意見が交わされました。



バイオトイレについて説明を受ける学生たち

9月12日(火)は、バイオトイレが設置されている旭山動物園で実際に使用し、工場内と変わらない効果に驚いていました。

9月18日(月)と19日(火)はユネスコ世界遺産の知床を視察しました。9月18日はカムイワッカの滝と知床五湖を視察し、19日は船に乗る予定でしたが悪天候で欠航となり、大変残念でしたがカラフト鱒の遡上を見ることができました。小雨の中でしたが、川一面に折り重なるように遡上する鱒を、時間ぎりぎりまで30分以上にわたって熱心に見入っていました。

### ▼シンポジウム

9月20日(水) ACCUと北見工業大学主催、斜里町共催で「ユネスコ世界遺産国際シンポジウム in



斜里町」を実施しました。

シンポジウムは、植物写真家で知られる梅沢俊氏の「自然公園知床とキナバルを外から見る」と題した基調講演で始まり、知床博物館館長中川元氏と本学修了生で現マラヤ大学教員のファイズル氏のプレゼンテーションが行われました。最後に全員参加のディスカッションを実施し、活発な意見が出されましたが、終了の時間となってしまう、もっと多くの意見が聞けなかったのが残念でした。



シンポジウムの様子

#### ▼地域住民との交流

9月15日（木）は、本学アトリウムで約80人が参加して、地域住民との交流会「インターナショナルCアワー」を実施しました。当日は日本からは北見市の合唱団コーロエコが美しい歌声を披露し、お返しには、マラヤ大学学生が綿密に準備した映像による自己紹介、民族衣装でのファッションショーと歌などのパフォーマンスで大変盛り上がりしました。その後お茶とお菓子の会となって、終了するまで尽きない話に花が咲いていました。

9月19日（火）は、斜里町の主催で「国際交流の夕べ」が実施されました。会には斜里町長を始め斜里町の国際交流関係の方々に参加し、歌や手品を披露してくれました。マラヤ大学の学生もお国の歌で応えるなど、会場は最初から最後まで笑いが絶えませんでした。

#### ▼ホームステイ

9月14日（木）～18日（月）の5日間、参加学

生10人はホームステイで北見市民の家にお世話になりました。

最初は少々不安そうでしたが、学生の一人が「今回のプログラムの唯一の不満はホームステイの期間が短かったこと」と言っていたことからわかるように、最後はみんなの一番の思い出となりました。

ホストファミリーの皆さん、本当にありがとうございました。



ホストファミリーと記念撮影

#### ▼ユネスコ訪問

9月11日（月）は、旭川ユネスコ協会を訪問し、ユネスコの精神や活動についてお話しをお聞きする機会を得ました。帰りには、まだ市販されていない特大のトマトと取り立てのトウキビをいただいてホテルでおいしくいただきました。

9月13日（水）は、北見ユネスコ協会を訪問し地域のユネスコの活動について、ボランティアの大切さについて学びました。

9月22日（金）は、いよいよ本プログラムの主催であるACCUの訪問です。今回のお礼と報告の後、マラヤ大学学生一人一人から今回のプログラムについて感想と成果が報告されました。

#### ▼最後に

このプログラムについては、参加学生の努力、引率のイスワジ先生及びサバリエ先生の積極的な協力もあり、所期の目的を他達成することができました。マラヤ大学と本学の交流を今回だけに終わらすことなく、このプログラムの成功を契機に、両大学の研究者交流や共同研究、学生交流を進めていきたいと思えます。

## = 諸報 =

### 科学研究費補助金説明会を開催

(研究協力課)

去る8月2日、総合研究棟多目的講義室において科学研究費補助金説明会を開催しました。

講師には日本学術振興会研究助成課研究助成第二係 小暮光生係長をお招きし「科学研究費補助金について」と題して、科学研究費補助金の制度、公募に当たっての留意点、採択に結びつく計画調書の書き方等について具体例を交え説明が行われました。

引き続き、機能材料工学科 青木教授並びに

未利用エネルギー研究センター 庄子教授から「科研費申請書作成にあたってのアドバイス」があり、終了後質疑応答では、経費の使用について、採択に結びつく書き方のポイントについて活発な質疑応答が行われました。

なお、本説明会には本学をはじめ、日本赤十字北海道看護大学、北海商科大学、東京農業大学から教職員 65 名が参加しました。



説明会場の様子

## ものづくりセンターの看板上掲

(研究協力課)

このたび本学機械システム工学科に附属していた旧機械実習工場を母体として「ものづくりセンター」が設置されました。

8月3日(木)に機械システム工学科2号棟玄関前において、学長、大島理事と初代センター長に就任した富士センター長ら関係者が出席して看板の上掲式が行われました。

ものづくりセンターは、学内的には学生の実践的なものづくり教育を通して、創造性豊かな学生の育成、あるいはベンチャー精神を育成できることを目指しています。

具体的には学生等の研究遂行に必要な機材・

装置の製作支援、学生の課外活動や自発的な学習支援、ロボコン等の学外コンテスト用機器・道具の製作支援を行う予定です。

また、学外的には「おもしろ科学実験」等の地域プロジェクトへの参加支援、「KIT げんき会」会員からのものづくりに関する相談等を受け付ける計画もあります。

ものづくりセンターが設置されたことによる「創造性豊かな人材育成」と「具体的なものづくりの支援」の発展充実が期待されます。



看板を上掲する常本学長、富士センター長と大島理事

## 北見工業高校とSPP事業を実施

(教務課)

平成14年度から平成17年度まで実施したサイエンス・パートナーシップ・プログラム事業の調査研究の成果を踏まえ、平成18年度より、独立行政法人科学技術振興機構において実施することとなった「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)事業」に採択され、8月10日～11日の2日間、北見工業高等学校との連携により「講座型学習活動」を実施しました。

今年のテーマは、「自然にやさしいエネルギー利用技術」で、機械システム工学科の

先生方が中心となって講義及び実験を実施しました。

両日とも、同校の1・2年生を中心に19名を大学に招いて、新エネルギー技術と環境との関連についての講義及びスターリングエンジン、燃料電池、風力発電等の各種教材を用いての実験等を行いました。

終了後、2日間の講義・実験についての感想文を提出してもらい、高校生たちは、工学への興味や関心をさらに高めることができました。



開会式の様子



太陽電池－燃料電池 性能計測風景

## 財務諸表等の開示

(財務課)

国立大学法人法に基づき、平成18年9月1日付けで文部科学大臣の承認を受けた平成17(第2期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む。)及び関係書類を、

本学ホームページの情報公開(<http://www.kitami-it.ac.jp/pubdoc/system/zaimu/index.htm>)に登載しましたのでお知らせします。

**貸借対照表**  
**第2期事業年度**  
平成18年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				
固定資産				
1有形固定資産				
土地		1,560,686,000		
建物	4,971,947,444			
減価償却累計額	550,982,528		4,420,964,916	
構築物	225,795,289			
減価償却累計額	64,995,321		160,799,968	
機械装置	43,823,418			
減価償却累計額	10,853,551		32,969,867	
工具器具備品	1,543,537,464			
減価償却累計額	676,009,777		867,527,687	
図書			1,018,358,734	
美術品・收藏品			375,030	
船舶	995,000			
減価償却累計額	514,988		480,012	
車両運搬具	6,161,905			
減価償却累計額	2,362,272		3,799,633	
	<b>有形固定資産合計</b>		<b>8,065,961,847</b>	
2無形固定資産				
特許権			2,965,376	
ソフトウェア			21,004,613	
その他の無形固定資産			845,000	
	<b>無形固定資産合計</b>		<b>24,814,989</b>	
3投資その他の資産				
投資有価証券			200,425,950	
長期前払費用			39,398	
	<b>投資その他の資産合計</b>		<b>200,465,348</b>	
	<b>固定資産合計</b>		<b>8,291,242,184</b>	
流動資産				
現金及び預金		789,300,868		
未収学生納付金収入	16,621,500			
徴収不能引当金	4,532,232		12,089,268	
前払費用			3,458,376	
未収収益			158,074	
その他の流動資産			4,404,680	
	<b>流動資産合計</b>		<b>809,411,266</b>	
				<b>9,100,653,450</b>
負債の部				
固定負債				
資産見返負債				
資産見返運営費交付金等	314,161,984			
資産見返補助金等	2,765,164			
資産見返寄附金	37,977,364			
資産見返物品受贈額	1,205,882,831	1,560,787,343		
リース長期未払金		215,133,511		
	<b>固定負債合計</b>		<b>1,775,920,854</b>	
流動負債				
運営費交付金債務		213,192,884		
寄附金債務		291,191,503		
前受受託研究費等		13,696,381		
預り金		45,411,555		
未払金		456,424,782		
リース未払金		57,545,149		
未払費用		17,026,992		
未払消費税等		1,936,800		
	<b>流動負債合計</b>		<b>1,096,426,046</b>	
				2,872,346,900
資本の部				
資本金				
政府出資金		4,333,203,935		
	<b>資本金合計</b>		<b>4,333,203,935</b>	
資本剰余金				
資本剰余金		2,547,361,969		
損益外減価償却累計額		778,865,658		
	<b>資本剰余金合計</b>		<b>1,768,496,311</b>	
利益剰余金				
目的積立金				
教育研究活性化・環境整備積立	70,139,000	70,139,000		
積立金		7,763,760		
当期未処分利益		48,703,544		
(うち当期総利益)		48,703,544		
	<b>利益剰余金合計</b>		<b>126,606,304</b>	
	<b>資本合計</b>		<b>6,228,306,550</b>	
	<b>負債資本合計</b>		<b>9,100,653,450</b>	

# 損益計算書

## 第2期事業年度

自 / 平成17年4月1日 至 / 平成18年3月31日

(単位:円)

経常費用			
業務費			
教育経費	315,348,323		
研究経費	547,672,880		
教育研究支援経費	145,947,726		
受託研究費等	126,049,477		
受託事業費等	2,315,250		
役員人件費	57,490,991		
教員人件費	1,739,185,977		
職員人件費	919,906,090	3,853,916,714	
一般管理費		298,461,087	
財務費用			
支払利息	3,708,512	3,708,512	
雑損		17,000	
	経常費用合計	<u>4,156,103,313</u>	
経常収益			
運営費交付金収益		2,376,315,004	
授業料収益		1,100,669,686	
補助金等収益		11,596,869	
施設費収益		50,376,660	
入学金収益		154,620,600	
検定料収益		37,869,000	
受託研究等収益(国又は地方公共団体)		38,224,709	
受託研究等収益(国又は地方公共団体以外)		99,307,874	
受託事業等収益(国又は地方公共団体以外)		2,546,250	
寄附金収益		82,358,281	
資産見返負債戻入		223,409,972	
財務収益			
受取利息	1,036		
有価証券利息	354,435	355,471	
雑益			
財産貸付料収入	18,588,827		
講習料収入	154,500		
文献複写料収入	230,355		
研究関連収入	3,412,398		
大学入試センター試験実施経費収入	4,547,230		
その他の雑益	4,320,744	31,254,054	
	経常収益合計	<u>4,208,904,430</u>	
経常利益			52,801,117
臨時損失			
固定資産除却損		4,097,573	4,097,573
当期純利益			<u>48,703,544</u>
当期総利益			<u><u>48,703,544</u></u>

## 進学説明会の開催

(入 試 課)

8月26日(土)に盛岡、9月9日(土)には大阪において、本学単独での進学説明会が開催されました。今年度より入学試験会場を本学のほかに新たに大阪へも置くことに伴い、前年度から引き続きとなる盛岡会場のほか、大阪会場を新たに設けました。

当日は、本学へ入学を希望する高校生やその

父母、また高等学校教諭が参加し、本学教員へ積極的に質問を向けていました。

説明会の中では、副学長による本学概要説明の後、本学の教員が参加者へ個別に面談を行い、参加者からは「入試状況等大変参考になった」、「とても刺激になった」など好評を得られました。



盛岡会場



大阪会場

## 父母懇談会（秋季・大阪）を開催

### —関西地区で活躍する同窓生から就職についての助言—

(教 務 課)

「父母懇談会（秋季）」を、9月10日(日)大阪府私学教育文化会館を会場として、北海道以外に在住の父母を対象に実施しました。

当日は、91組135名の父母が参加し、まず始めに全体説明会において、常本学長からは「本学の使命とその特色について」と題して、本学の教育の魅力や研究の特徴、また技術者として働くこと

の面白さについて、小林副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。

その後、各学科、専攻別に実施された個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは多くの質問が投げかけられ、活発なやりとりが交わされました。

また、個別面談までの待ち時間には常本学長、小林副学長及び関西地区の企業で活躍している本学同窓生5名による父母との質疑応答等の時間が設けられました。その中で父母からは、学生を取り囲む地域環境や大学院への進学に関すること、資格試験の取得に対する大学の取組みや卒業後の就職先に関する質問が出されました。また、客観的な視点を持って大学を見たときの特徴や魅力について説明を求める声もあり、大学の詳細を知ろうとする父母の熱意をうかがうことができ、充実した内容の質疑応答となりました。



質問をする父母の様子

## SVBL オープンラボ(研究報告会)を開催

(研究協力課)

去る9月13日、総合研究棟多目的講義室においてSVBL オープンラボ(研究報告会)を開催しました。

オープンラボは二部構成となっており、午前の部が各SVBLのプロジェクト研究からの研究成果報告会、午後は各プロジェクトの実験室等をまわり研究内容を見学するラボツアーに分け実施されました。

まず主催者を代表し川村SVBL長から挨拶のあと常本学長からの挨拶を受け、引き続いて6つの研究

プロジェクトから研究内容について各20分間で報告されました。

午後からは、総合研究棟内の6つのプロジェクトを10分間ずつ見学してまわり、実際に体験し、先端技術を肌で感じていただきました。

なお、オープンラボに本学教職員、学生をはじめ、共同研究先企業、他大学教職員などから約50名が参加し、実りある報告会となりました。



ラボツアーの様子



= 規程 =

(25ページから120ページまで、掲載略)

## = 日誌 =

(総務企画課)

- |  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| 8月 2日 学生委員会                                  | 9月 4日 企画運営会議                         |
| 2日 科学研究費補助金説明会                               | 5日 2006年ACCUユネスコ大学交流プログラム<br>( ~24日) |
| 4日 教務委員会                                     | 5日 入学者選抜委員会                          |
| 5日 大学開放推進事業「おもしろ科学実験」                        | 6日 教授会                               |
| 5日 夏期休業日 ( ~9月25日)                           | 6日 研究科委員会                            |
| 7日 企画運営会議                                    | 6日 大学院博士前期課程・後期課程合格発表                |
| 7日 メンタルヘルスサポート研修                             | 7日 発明審査委員会                           |
| 8日 知的財産セミナー                                  | 11日 企画運営会議                           |
| 9日 教育研究評議会                                   | 12日 公開講座 ( ~21日)                     |
| 9日 広報委員会                                     | 13日 教育研究評議会                          |
| 10日 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)<br>事業 ( ~11日) | 13日 SVELオープンラボ                       |
| 10日 附属図書館委員会                                 | 15日 学位記授与式                           |
| 18日 学長選考会議                                   | 19日 企画運営会議                           |
| 21日 平成18年度秋季・平成19年度大学院<br>博士前期課程入学試験 ( ~22日) | 20日 知的財産セミナー                         |
| 23日 平成18年度秋季・平成19年度大学院<br>博士後期課程入学試験         | 20日 地域連携推進委員会                        |
| 30日 認証評価委員会                                  | 22日 学長選考会議                           |
| 30日 技術部技術員研修 ( ~31日)                         | 22日 経営協議会                            |
| 30日 教務委員会                                    | 28日 情報システム運営委員会                      |
| 31日 地域共同研究センター産学官連携推進員<br>会議                 | 29日 就職ガイダンス                          |